

如月の月 金子兜太先生を偲ぶ

日本を代表する俳人金子兜太先生がなくなって2年。2018年2月20日に先生は旅立たれた。先生とは直接お会いしたことはないが、弟様の金子千侍先生には「秩父音頭」を道場で教えてもらい、「免許皆伝書」をいただいた。（金子先生の父上は金子伊昔紅氏。秩父音頭まつりの家元）

金子千侍先生からは俳句の手ほどきを外国人学生とともに受けた。（国際ロータリー第2570地区米山記念奨学生たちと）。千侍先生は「兄ならばこう表現したでしょう」とおっしゃっていたので、兜太先生と面識のあるような身近さを感じる。

「まんじゅしゃげ どれもへそ出し秩父の子」兜太先生の句だ。夏から秋にかけて秩父路をゆくところの句が頭をよぎる。しかし、兜太先生の生まれ年は1919年。一句一句ではないか。生まれ持ったの俳人だ。

兜太先生、帝大卒業後、海軍主計中尉。戦後は日銀へ。弟様は家業の医者継ぐ。生まれ持ったの俳人と一言では語れない人生でもあつたらう。合掌。